

●ワシントン会議は海軍軍縮を主なテーマに大正10年(1921)11月に開かれた国際会議

▽海軍大臣として 首席全権を務めた加藤友三郎

▽日本は 主力艦(戦艦)について 対米7割

結果は「五・五・三」米英の6割で決着

▽加藤は 建艦競争を続けていたら 財政は破綻

世界の大勢 国益を冷静に判断 軍縮に踏み切る

▽際立っていた 見識 総合判断力 決断力 統制力

政治が軍事をリード 軍人首相(16人)の中でも

第一位に挙げるべき 優れた政治家だった

●軍縮会議開催の原動力となった第一次世界大戦

▽大正7年11月 4年3か月の大戦は

ドイツ降伏で終わったが 平和への願いを強く

▽「イギリスという御者が、アメリカという馬車を

走らせたのだ」 会議主催国はアメリカだが

軍縮気運を作り出し 仕向けたのはイギリス

▽イギリス経済の 痛手は大きく 復興優先

戦艦の廃棄処分(1919年3隻 1920年5隻)にまで

英海軍の「世界一の座」は アメリカ海軍に

▽ロイド・ジョージ英首相は 議会で演説(1919年12月24日)

「世界のいかなる地域であれ、大規模な軍備を行

なうことは、必ずやあらゆる国々を貧困と破局

へ導くことになるだろう」 米国への軍縮アピール

●アメリカを動かした切札が、間もなく満期を迎える日英同盟だった

— 日英同盟 —

明治35年1月に締結、日本外交の基軸だった。当初は2国以上と戦争になった場合、参戦義務を負うという独仏がロシアにつくのを牽制した防守同盟だったが、38年8月どちらかが戦争になれば直ちに参戦義務を負う攻守同盟に強化された。44年7月に第3次改訂が行なわれ、対米関係を気にする英国の希望で米国を同盟の対象外とした。期限は10年で大正10年7月に満期を迎えることになっていた。

加藤 友三郎(かとう・ともさぶろう)

文久1(1861)～大正12(1923)広島・安芸藩出身。海軍大将。明治32年海軍省軍事課長。38年1月連合艦隊参謀長となり日本海海戦に勝利。海軍次官、呉鎮守府長官を経て大正4年大隈内閣海相。寺内・原・高橋内閣に留任し、ワシントン会議首席全権として海軍軍縮条約に調印した。11年6月海相兼務のまま首相に就任しシベリア撤兵、陸海軍軍縮を達成。在任中に病死し、元帥の称号を贈られる

— 第一次世界大戦 —

大正3年6月28日、ボスニアの首都サラエボでオーストリア皇太子がセルビア青年に暗殺され、7月28日オーストリアがセルビアと開戦したことから、ドイツなどの同盟国、英仏露の連合陣営に分かれ、参戦国32か国、動員兵力6千万、死傷者1900万人の地球規模の戦争となった。

従来の戦争の様相を一変させ、飛行機、戦車や毒ガスの新兵器も登場、爆撃や長距離砲の砲撃で一般市民も巻き込まれ、前線も銃後もない総力戦、長期戦となった。

日本は8月23日、ドイツに宣戦布告、中国山東半島に上陸し、11月7日ドイツの租借地青島を占領、海軍もマーシャル、カロリン、トラックなどのドイツ領南洋群島の占領を進めた。

ロイド・ジョージ(Lloyd George)

1863～1945 イギリスの政治家。自由党急進派に属し、議員・蔵相時代に社会保障制度の基礎を築く。1916年、連立内閣首相となり第1次大戦を遂行、パリ講和会議を主導した

▽英国内では 極東での 露・独の脅威がなくなり

当初の存在意義は 失われたとの意見

▽日本の アジア進出に対する 警戒感も

中国山東半島の 独租借地・青島を占領し

中国には「21カ条要求」を 突き付けた

▽パリ講和会議で 国際連盟が設立され

同盟をそのままの形で 継続することが難しく

国際連盟規約第20条

規約の条項と両立しない、連盟加入国相互間の義務または了解は、廃棄されるべきである。こう規定しており、攻守同盟の日英同盟は、紛争を平和的に処理しようとする連盟規約の条項とは、相容れないものとなった。

英政府も同盟継続の意向だったが…

同盟を連盟規約に抵触しない形で修正し、米の同盟に対する反感を和らげる措置を講ずる — 基本方針を決定していたが、帝国防衛に関わる問題は自治領諸国にも諮るべきだとの意見が出て、最終態度決定は大正10年6月20日からの大英帝国会議に持ち越された。

廃止論急先鋒のカナダ首相は「同盟継続はアメリカを軍拡に走らせカナダの安全にとって害になる。英米親善を実現するためには、日英関係を犠牲にするのも止むを得ない」。オーストラリア首相は太平洋地域の安全保障から同盟継続を主張、ニュージーランドも同調した。

一致点が見出せないまま英政府は、米政府の好意的な仲介に期待し大統領に太平洋会議開催を要請、日本には会議参加を促すことを優先事項とした。日英同盟をどうするか、このカードを米に預ける形で国際会議の開催を働きかけた。その米の希望は日英同盟廃棄であり、同盟の運命はこの時に決まったといえる。

●アメリカにも軍縮を求める世論

▽ウィルソン大統領は「世界に並ぶもののない最大の海軍建設」を宣言（大正5年2月3日 セントルイスの演説）

▽3年計画 5億8千万ドルの大予算

対中国21カ条要求

中国政府は、山東半島から日本軍の即時撤退を要求、大隈重信内閣が大正4年1月18日、これに対する回答として出したのが「21カ条要求」。5号21か条から成り、日本の眼目は旅順・大連の租借権と満鉄の買戻権の99か年延長にあった。しかし後々まで日本の領土的野心の表われだとして非難されたのが、「希望条項」とされた第5号の「中国全土にわたる要求」だった。

(1) 中央政府への日本人の政治・財政・軍事顧問招聘 (2) 日本人の病院・寺院及び学校の土地所有権 (3) 警察の日中合弁もしくは多数の日本人警察官の雇用 (4) 日本から半数以上の兵器受容、もしくは日中合弁の兵器廠設立、など。

米英からも非難が出て、大隈内閣は第5号を削除した最後通牒を送り、中国政府は5月9日に受諾、この日を「国恥記念日」と名付け、反日排日運動が中国全土に広がっていった。

大隈 重信(おおくま・じげのぶ)

天保9(1838)～大正11(1922) 佐賀・鍋島藩出身。参議を経て明治21年外相、条約改正交渉をしたが来島恒喜に爆弾を投げられ、右足を失い辞職。31年憲政党を結成、史上初の政党内閣を組織するも、党内分裂で辞職。大正3年再び首相となり、第1次大戦で対独宣戦布告。この間、明治15年に東京専門学校(現大東)を設立

ウィルソン(Thomas Woodrow Wilson)

1856～1924 米28代大統領(1913～21)。連邦準備銀行制、トラスト規制など、革新的政策を推進。第1次大戦に対独参戦し、講和のための14か条の原則を提唱、パリ講和会議を指導して国際連盟の設立に尽力した。ノーベル平和賞受賞

▽大正8年までに 艦艇156隻(艦10隻 群艦6隻)

▽戦後不況が始まっていた 完成は たった1隻
国民の間からも「戦争が終わったのに、どうしてそんなに軍艦を造る必要があるのか。それよりは、俺たちの生活を何とかしろ」

▽大正9年11月 共和党のハーディングが大統領選挙(第29代)に当選した時 直面したのは失業対策 景気回復対策

海軍予算削減を 検討せねばならなくなった

▽米上院は「国際軍縮会議を開け」

決議案を 全会一致で採択(10年5月25日)

▽大統領の指導力を 国民にアピールするためにも軍縮会議を開いて 成功させる必要に迫られた

●日本は「八八艦隊」(艦8隻 群艦8隻)建設中だった

▽日露戦争で 外国から 莫大な借金

明治39年暮れには 英新鋭戦艦

ドレッドノート号の激震に 襲われた

▽軍艦の大型化 設備の近代化で

世界は「大艦巨砲時代」に 突入した

▽ただ 日本は大戦で 空前の軍需景気

借金国が 一躍 債権国に

▽軍拡に 財政の制約がなくなり

大正9年7月 原敬内閣の時に

「八八艦隊」予算 6億8千万円が

議会で認められ 大正16年度完成の予定

●戦後不況は日本も直撃した

▽株式大暴落(4月7日)が始まり 商品相場も暴落(13日)

▽軍事費は 年々 膨れ上がるばかり

大正9年度予算でも

一般歳出(13億6千万円)のうち 9億円 66%に

●加藤は、敏感に危機感を感じ取っていた

▽「八八艦隊」は 一度造ったら 終わりではない

▽完成して 8年までの軍艦を「第一線艦隊」

毎年2隻ずつ造って 切り替えねばならない

▽しかも 維持 整備にかかる費用を

試算させたところ 6億円もかかる

完成させても「維持は不可能」の答え

— 帝国国防方針(昭和40年4月4日閣議) —

「海軍所要兵力」用兵上最重視スヘキ
想定敵国二対シ東洋ニ於テ攻勢ヲ取ル
タメ最精鋭ナル一艦隊ヲ常備スルヲ要
ス。其ノ兵力ノ最低限ハ戦艦凡2万屯8
隻、装甲巡洋艦(戦艦群艦と改称)凡1万8千屯
8隻ヲ基幹トシ、巡洋艦及ヒ駆逐艦等各
若干隻ヲ付シ国防上ノ第一線艦隊トス

…… 弩級戦艦と超弩級戦艦 ……

日本海軍は、日露戦争中に大型艦の
国産化に踏み切り、明治38年12月、巡
洋戦艦筑波が進水、戦艦薩摩、安芸な
ど5隻(12砲4門18ノット)を相次いで起工
した。しかし39年12月、ドレッドノー
ト(17500ト・12砲10門22ノット)が竣工、一
夜にして旧式戦艦になった。

ドレッドノートの頭文字をとり「弩
級戦艦」と呼んだが、41年に弩級戦艦
河内、摂津を着工したところへ、今度は
ライオン(28000ト・13.5砲8門28ノット)
の登場。日本は超弩級戦艦金剛(14砲
8門)を英に発注し、国産で7隻を建造。
さらに「八八艦隊」の一、二番艦長門、
陸奥(32700ト・16砲8門26.5ノット)を竣工
させたところでワシントン会議に。

— 加藤は海軍省の幹部に話した —

「海軍大臣になって六年近くになる
が、世間や議会も大きく変わってき
た。最初の頃は、横須賀の進水式に議
員を招待すると、みんな結構ですと、
祝杯をあげて喜んでくれたものだ。
ところが最近では、幾らかかったか
とか、経常費はどれほど必要かとか、
お金のことばかりを聞くようになった。
実際、艦隊を維持する経常費が非
常に多くなってきた。国の収入はそ
の割合では増えていないし、このま
まではやって行けなくなる」

▽みんな「強い海軍には八八艦隊は絶対必要」

▽加藤は 幹部50人ほどを集めて

大蔵省幹部 西野元に 財政の説明をさせた

それは 切羽詰まった 悲鳴のような訴えだった

▽東京駅前では 丸ビルが工事中だった

加藤は「八八艦隊は丸ビルの鉄骨だけが出来た
ようなものだ。完備するのはとても大変で、そん
な実力は日本にはない」

▽加藤は「どこかでストップを」と 決意した

●アメリカの軍縮会議提案は、加藤には「渡りに舟」

▽米政府は 大正10年7月11日

日本 イギリス フランス イタリア 中国に

参加するかどうか 意向を 打診してきた

▽原敬首相の思いも 加藤と 全く同じだった

—— 法制局長官横田千之助の話 ——

「原さんは日頃神仏などを口にする人ではな
かったが、この時には「ハーディングの頭に神
が宿ったのだ」と、非常に喜んでおられた」

…… 「国難来る」と書いた新聞も ……

東京朝日新聞は、「極東問題—総勘定の日、大
難局下の日本」の見出しで「来る可き太平洋会
議に於ける日本は日露戦争以後の外交的難局
に立てりといふも過言ではない」と書いた。

海軍軍縮のほか、「極東及び太平洋の諸問題」
を議題としていたから、21カ条要求問題、山東
問題を取り上げ、日本を被告席につけて裁こ
うというのではないかと、警戒感が強かった。

●原は、対米英協調の必要を痛感していたから、会議参
加の決意は固かった

▽米提案を 日本の大陸政策を転換し

外交の主導権を 軍部から外務省に取り戻し

日本の国際的地位改善の 絶好の機会と見た

▽首席全権も 早くから 加藤と決めていた

▽原内閣は 8月23日 会議参加を回答

▽全権には 幣原喜重郎(幣原) 徳川家達(徳川)

会議途中から 埴原正直(埴原)

西野 元(にし・げん)

明治8(1875)～昭和25(1950) 水戸市生
まれ。大蔵省に入り大正11年大蔵次官。
十五銀行頭取、日本勧業銀行総裁歴任

—— 西野は訴えた ——

「日本の財政を生かすも殺すも、あ
なた方海軍であります。国防上、膨大
な海軍も必要でしょう。しかし、折角
建物が出来ても、これに住むには、イ
スやカーテンも必要なのです。これ
はどうしますか。私どもはサジを投
げるしかありません。どうしたらよ
いか、皆さんで考えて下さい」

原 敬(はら・たかし)

安政3(1856)～大正10(1921) 盛岡南部
藩出身。郵便報知記者、農商務省を経て
陸奥宗光に認められ、明治25年陸奥外
相の下で商務局長、次官。33年政友会創
立に参画、35年以降衆議院議員に当選、
幹事長を務める。逓信相、内相を歴任し
大正2年政友会総裁。7年9月初の純政
党内閣を組織し「平民宰相」として世論
の支持を受けたが、東京駅で暗殺される

横田 千之助(よこた・せんすけ)

明治3(1870)～大正14(1925) 栃木県生
まれ。弁護士。明治42年衆議院議員に当
選。政友会幹事長、原内閣法制局長官を
歴任、一時総裁代行。加藤高明内閣法相

—— 互いに信頼していた原、加藤 ——

加藤は、閣議の席でも海軍以外のこ
とには口を出さず黙って聞いている
が、核心を捉え、簡潔に結論だけを言
う。原も「加藤という人は普段は黙っ
ているが、何事でも正確な判断で結
論を出して行く」

重要な問題は、原の方からよく相談
を持ち掛けたが、加藤も「原さんは頭

▽幣原は 加藤の希望

外交手腕 英語力 何より 英米協調の姿勢は
会議の成功には 欠かせないと思っていた

..... 徳川は原内閣の貴族院対策

原内閣(大正7年9月組)最大の特色は、外相と陸海軍大臣以外は全て政友会党員の「純政党内閣」だったこと。また原がこれまでの首相と違い、藩閥、公家の出身でなく、国民から選挙で選ばれた代議士が初めて首相になったこと。朝日は「特に総理大臣の衆議院議員たるが如きは、実にわが国において破天荒と云ふべく」と、画期的な意義を強調している。

原が総裁の政友会は9年5月の総選挙で、衆議院464議席の6割、278議席と地滑りの勝利を収め、圧倒的強みを誇っていたが、貴族院という弱点を抱えていた。ここは官僚勢力の代表。今の参議院と違い衆議院とはほぼ同等の力を持っていたから、貴族院にソッポを向かれると、予算も法案も通らなかった。

▽全権団の顔触れが 発表されると

さっそく噛み付いたのが 軍縮論者の尾崎行雄
「全く滑稽だ。軍縮会議に軍人の加藤が行くのは
葬式に婚礼姿で行くようなものではないか。徳
川に至っては元の將軍様で、日本ではまだ封建
思想が尊重されていることを示すようなもの」

▽与党政友会の中にも 反対論

「海軍の全権が行けば強硬論を唱え、会議をぶち
壊すだけではないか」

▽しかし 原首相は 加藤に全幅の信頼

「海軍以外から全権を出せば、海軍に抵抗されて
纏るものも纏らない。むしろ海軍からしっかり
した人物を選ぶ方が、海軍を抑え海軍を納得さ
せることができる」その人物こそ加藤

●海軍は「対米7割」を基本方針

▽「帝国ハ米国ニ対シテ七割以上ノ海軍兵力ヲ絶対
ニ必要トスル」

▽日本海海戦の英雄 海軍部内に 絶対的重みの
東郷平八郎元帥も 7割論の支持者

といい、精力といい、珍しいほど偉い
人だった。自分は正しいと信じたこ
とは、大概、相手を必ず説得する自信
を持っていたが、どうも原さんだけ
には押されてしまうことがある」

幣原 喜重郎(しでら・きじゅうろう)

明治5(1872)～昭和26(1951) 大阪生まれ。大正4年外務次官、8年駐米大使となり、ワシントン会議全権。13年加藤高明内閣外相、若槻・浜口内閣にも留任し国際協調外交を推進。昭和5年ロンドン軍縮条約調印に漕ぎ着けたが、軍部、右翼から軟弱外交と批判される。戦後、20年10月首相。24年衆議院議長、在任中死去

徳川 家達(とくがわ・いえさと)

文久3(1863)～昭和15(1940) 江戸生まれ。旧徳川將軍家第16代。明治10年から5年間英国留学。23年貴族院議員となり36年から昭和8年まで30年間議長。この間、ワシントン会議全権、日赤社長

尾崎 行雄(おさき・ぎゆう)

安政5(1858)～昭和29(1954) 神奈川県生まれ。号を憊堂。明治23年から昭和27年まで、衆議院議員連続当選25回。代議士生活63年の記録を樹立し28年に国会から名誉議員の称号を贈られた。法相、東京市長を歴任。大正2年の大正政変では桂内閣を弾劾して「憲政の神様」といわれ、普通選挙運動の先頭にも立った

東郷 平八郎(とうごう・へいはちろう)

弘化4(1847)～昭和9(1934) 薩摩藩出身。海軍大将・元帥。明治3年から8年間、英国留学。36年連合艦隊長官となり、日本海海戦でバルチック艦隊を破り国民的英雄に。戦後軍令部長。海軍長老として大きな発言権を持ち、昭和5年のロンドン軍縮条約に反対した。国葬

▽加藤は 比率にこだわるより

もっと 目に見える形で 日本の安全を高める

▽出発前 原首相に 「八八艦隊の原則は破りたくないが、いざという場合の対策は練っている。米がグアムの防備を撤去すれば小笠原の防備を撤去してもよいし、マニラの防備を撤去するなら澎湖諸島の防備を撤去してもよいと思っている」

▽全権団に与えられた 政府訓令は

国際協調の確立 特に「米国トノ親善円満ナル関係ヲ保持スルコト」が 最重要方針とされた

▽海軍の軍備制限については「八八艦隊ヲ基本トスルガ、情況ニ応ジ之ヲ低減スルモ辞サズ」

対米7割が明示されず 加藤の裁量に任されたのは 原のリーダーシップによるもの

▽加藤には もう一人 強力な味方

山下源太郎軍令部長は「対米7割が6割になったら、それで防衛出来るよう作戦を立てるのが軍令部の仕事です。比率については、万事、大臣にお任せします。大臣の意のあるところを実行して下さい」

●全権団に衝撃、原首相の暗殺

▽全権団140人は 10月15日 アメリカへ

▽原は 加藤の手を 固く握りしめ

「国内は自分が纏めるから、あなたはワシントンで思う存分やって下さい」

▽加藤が 最も頼みとする原は 11月4日

東京駅で 中岡良一(なかおか・こういち 19歳 大學生)に短刀で刺殺された

▽悲報を聞いて 加藤たちは

「今後どうなるのか。たとえ条約を成立させても果たして批准が得られるだろうか」

▽後継首相には 高橋是清蔵相がなり

高橋内閣は 全権団に

「外交方針は不変である」と 約束してきた

▽高橋は 財政の第一人者だが

政治力 指導力は とても 原には及ばない

▽枢密院 外交調査会 陸軍から

「国家の体面」を理由に 突き上げられ

そのたびに 方針がグラつき 全権団を悩ます

7割論の根拠

軍令部が、米艦隊との艦隊決戦を想定し、図上演習から弾き出した数字。日本近海にきた場合、途中の戦力消耗を計算すれば最初の10対7が1対1になる。それが10対6では1対1にならず、米艦隊が優勢を保持するとの主張だが、明確な根拠はなく「腰だめ」式の論議。

加藤も部下に「なぜ対米7割でなければならないのか」、理論的根拠の説明を求めたが、答えは「短刀は三寸五分でも腹は切れないことはないが、腹を切るにはやはり九寸五分は必要でしょう。それと同じで、7割あれば、勝てないにしても負けることはないと思います」

加藤は「彼らの説明は海軍部内では通るかも知れないが、政治家や外交官、まして外国を納得させることは出来ぬ」

山下 源太郎(やまた・げんろう)

文久3(1863)～昭和6(1931)山形県米沢藩出身。海軍大将。海兵校長、軍令部次長を経て大正6年第1艦隊長官兼連合艦隊長官。9年軍令部長。14年軍事参議官

狼狽する政友会

現職首相が、テロリストの手にかかって非業の死を遂げたのは日本の憲政史上初めてのことだった。政友会は幹部会議を開いて善後策を協議したが、原という強力なリーダーを失って、新聞はその混乱ぶりを「呻り声と嘆息の政友会、大変でがんす大変でがんすとお国弁丸出して只狼狽する地方党员」と伝えている。

中岡は「政治を悪くしているのは原内閣だ」と思い込み、「ワシントン会議にも反対だった」と言っている。

●加藤の評判は、余り芳しくなかった

▽痩せこけていて 慢性の胃病で 青白い顔

米新聞記者は「アドミラル・ポーカークフェース」

▽ポーツマス講和会議の 小村寿太郎(こむら・じゅうたろう)より
もっと 貧弱に 感じたという

▽会議が始まると 次第に 評判は高く

外国の新聞記者は 率直な話ぶり

自分の考えを はっきり言う加藤に 好感

▽緒方竹虎(おがた・たけとら)は「外国の記者仲間でも、
加藤はステーツマンだと、大変な評判だった」

●ワシントン会議は、11月12日開幕した

▽参加国は 9か国(ベルギー、フランス、オランダ、ポルトガル、イギリス、日本、アメリカ、イタリア、中国)

会場は 米上下両院議員など 2千人で超満員

▽誰もが 初日は 型通りの基調演説

追い追い 具体的協議に入るものか と思っていた

▽ところが 総会議長の 米国务長官ヒューズは
いきなり 爆弾提案をして

国際会議の お祭り気分を吹き飛ばした

「ヒューズの爆弾」

- ①10年間の主力艦の建造停止(ネイバル・ホリデー＝「海軍の休日」)
- ②現在建造中の主力艦は全て廃棄し建造計画を放棄する
- ③各国の現有海軍勢力を基準にして米、英、日本の主力艦保有比率を、総トン数の比で、五対五対三と定め、それに基づき各国の保有量を決定し、剰余の分については削減する
- ④補助艦(巡洋艦、駆逐艦)についても同じ比率を適用する

▽ヒューズは「この原則に基づき、アメリカは次の措置をとる用意がある」と 宣言した

「建造中の主力艦15隻を廃棄し、老齢艦15隻も廃棄する」 満場一斉に 起立し拍手

▽さらに 英国に23隻 日本に17隻の

主力艦廃棄を求め 協定成立10年後の

総トン数は 米英50万トンに対し 日本は30万トン

▽朝日新聞は「満場は百雷に打たれたように、
一瞬シーンとして声も出ない有様だった」

高橋 是清(たかひし・これきよ)

安政1(1854)～昭和11(1936) 江戸生まれ。日銀副総裁の日露戦争中、外債募集に成功。日銀総裁、蔵相を歴任し大正10年11月、原首相の暗殺で政友会総裁、首相に就任。昭和2年田中内閣蔵相となり金融恐慌を収拾。満州事変後に犬養・斎藤・岡田内閣蔵相、世界恐慌の危機を乗り切る。二・二六事件で暗殺される

小村 寿太郎(こむら・じゅうたろう)

安政2(1855)～明治44(1911) 宮崎県飫肥(おひ)藩出身。文部省留学生としてハーバード大に学び明治21年外務省翻訳局長。外務次官、駐米・駐露・駐清公使を歴任し、34年桂内閣外相。日英同盟を締結、日露開戦外交を主導。ポーツマス講和会議全権。駐英大使。41年再び桂内閣外相となり、韓国併合、関税自主権回復

緒方 竹虎(おがた・たけとら)

明治21(1888)～昭和31(1956) 山形県生まれ。朝日新聞に入り主筆、副社長を経て昭和19年小磯内閣国务相。戦後、吉田内閣で官房長官、副総理格国务相。29年吉田辞任後、自由党総裁となり、保守合同を推進したが、急逝した

米国の作戦

ハーディング大統領は「こうした軍縮の話し合いは、すぐお互いの利害がぶつかり合ってしまう。相当、思い切ったことをしなければダメだ」と思っていた。そこでヒューズ(海軍省の海軍次官)と立てた作戦が、米国政府の決意、誠意を示すため、最初から手持ちのカードを全部開いて見せるという、型破りな方法だった。

▽日本に対する6割提示 各国が どう出るか
▽フランス全権(3割5分提示)が 起立し

大声で「賛成」と言う

会場は再び 怒濤のような 喝采に揺れた

「戦争はなくなった。平和だ」の声も

▽米国世論 国際世論に訴えた 作戦の成功だった

「原則賛成」の腹を固めた加藤

会議早々の大胆な提案は、日本全権団にもショックだった。何度も席を替えて、考え直してみたい気分になったという。加藤も「大変なことが始まったな」と思ったが、特に強烈な印象を受けたのは会場の圧倒的な支持だった。

幣原に「もし、これに反対したら、日本はひどい目にあう。どうしても、主義として反対するわけにはいかない」。宿舎のホテルに帰るなりトイレに入って考えた。結論はこうだった。

ヒューズの提案で交渉の基礎が示され、問題点がはっきりした。この海軍軍縮は、むしろ10年間の平和の保障であり、日本としては国力の基礎を養う基礎を与えられたことになる。

「日本にとって不利はない」と判断し、早速記者会見を開き、ヒューズ提案を大英断と称え、「英米よりも劣勢の海軍を持てとの原則に、日本は不満はない」と言明した。

▽海軍随員の 野村吉三郎大佐に

内田康哉外相 井出謙治海軍次官に連絡させ

「原則賛成」の了解を 取り付けた

●総会第2日の15日は、各国全権の演説で始まった

▽イギリス全権バルフォアは 無条件受諾

▽会場が 固唾を飲んで見守ったのは 加藤全権

低い声で「日本は、主義において欣然この提案を受諾し、自国の海軍軍備に徹底的な大削減を加える決心をもって、協議に応ずる覚悟である」

▽通訳が「Agree in Principle」

満場 総立ちとなって 一斉の拍手

▽本国政府の回訓を待たずに 加藤が 独断で

演説草案を書いた 山梨勝之進大佐は

「生涯忘れられない光景だった」

— アメリカの新聞は書いた —

「ヒューズはたった一回の演説で、世界のどの海軍の提督よりもたくさんの軍艦を沈めた」

野村 吉三郎(のむら・きちさぶろう)

明治10(1877)～昭和39(1964)和歌山県生まれ。海軍大将。第1次大戦中、駐米武官。呉・横須賀鎮守府長官を歴任、昭和7年第3艦隊長官の時、上海で爆弾を投げられ片目を失う。学習院長、14年阿部内閣外相。15年駐米大使となり、開戦直前の日米交渉に当たる。29年に参院議員

内田 康哉(うちだ・こうさい)

慶応1(1865)～昭和11(1936) 熊本藩出身。駐米大使を経て第2次西園寺・原・高橋・加藤(友)内閣外相を務め、満鉄総裁。昭和7年斎藤内閣外相となり、満州国承認、国際連盟脱退など、国際的孤立を招く外交を推進、「焦土外交」と称される

井出 謙治(いで・けんじ)

明治3(1870)～昭和21(1946) 東京生まれ。海軍大将。大正5年に海軍軍務局長、9年次官。13年軍事参議官

バルフォア(Arthur James Balfour)

1848～1930 イギリスの政治家。1902年から3年間首相。第1次大戦中、外相としてパレスチナにおけるユダヤ民族国家建設を支持する「バルフォア宣言」

山梨 勝之進(やまなし・かつのしん)

明治10(1877)～昭和42(1967) 仙台市生まれ。海軍大将。昭和3年海軍次官、ロンドン軍縮条約締結に努力。佐世保・横須賀鎮守府長官を経て8年予備役。14年学習院長となり、21年にかけて皇太子(昭和)の教育に当たる

▽加藤は 比率については 追って修正案

「その場合、アメリカ及びその他の代表者は、日本が諸国の主張に対するのと同様の態度でこれを考慮されるように」望んだ

▽問題は 翌日からの専門委員会で

具体的協議を どう 進めるかだった

▽加藤は 内田外相に

「臨機適宜ノ処置ニ出ズルコトト致シタシ」
全権判断による 交渉の許可を求めた

●会議には「二人の加藤」が参加していた

▽海軍首席随員 7割絶対論者の加藤寛治中将

「対米7割が獲得出来ない限り

日本は会議を脱退し帰国する」

▽公式声明のように 受け取られ

「日本が脱退帰国だ」と

各国記者団が 日本大使館に 押しかけた

▽加藤は「加藤寛治君の個人的見解と見てもらいたい。全権団は脱退帰国など全く考えていない」

▽夜 ホテルの部屋に 加藤寛治を呼びつけると

青白い顔を 真っ赤にして 怒鳴り付けた

▽海軍大臣として 見事な 統制力だった

●問題は、建造中の軍艦の進捗率をどう算定し、現有勢力に入れるかだった

▽加藤(寛)は「日本は7割ある」と 譲らず

全権同士 3人の討議に 委ねられることに

— 日本の6割と引き替えに米国の譲歩を —

加藤は、①廃棄艦リストに入っている戦艦陸奥の復活②グアム島、マニラの要塞化阻止(アメリカが日本を攻める海軍基地をハワイから西には進めさせない) — この2点を対案として米英全権に示し、政府にも「これで妥結しよう」請訓した。

加藤の心配はアメリカ世論の動向だった。重ねて「日本が7割にこだわれば、今は沈静化している反日感情が噴出し、会議の失敗は全て日本に帰され、日本の国際的孤立は避けられない」と電報を打ち、政府の尻を叩いた。

加藤 寛治(かとう・ひろはる)

明治3(1870)～昭和14(1939) 福井県生まれ。海軍大将。ロシア駐在を経て日露戦争では三笠砲術長。駐英武官、海大校長を歴任、ワシントン会議随員。軍令部次長、連合艦隊長官を経て昭和4年軍令部長。ロンドン軍縮条約調印に反対、海軍部内の条約反対の「艦隊派」の中心となり、条約派と対立した

— 「大加藤」、「小加藤」を叱る —

野村は、小柄な加藤(友三郎)を「大加藤」、恰幅のよい加藤(巖)を「小加藤」と呼んでおり、「大加藤」はこう言って叱った。

「君は全権団の任務を何と心得ているのか。こんなことで日本が会議を脱退したら、会議分裂の責任を問われ、平和を乱す軍国主義者の汚名を蒙る。大体、君は専門委員で、全権は私である。私を差し置いて、脱退帰国などと、勝手な声明を出すことは絶対に許さん。海軍中將にもなっていて、それくらいのことがわからんのか。今後こういうことがあれば、君だけ帰国を命じる」

緒方なんかも海軍の話になると、この「大加藤が小加藤を叱った話」をよくしていたという。

…… 悲運の戦艦陸奥 ……

陸奥はワシントン会議の直前、大正10年10月24日に竣工したが、「艦装が終わっていない」との理由で、一旦は廃棄艦リストに入れられていた。

長門と共に連合艦隊の象徴だったが、昭和18年6月8日、瀬戸内海の柱島泊地で、火薬庫爆発により爆沈した。艦内盗難事件の疑いをかけられた下士官が、火薬庫に放火した無理心中だった、との説がある。

▽高橋内閣が「条件付6割」を閣議決定
陸奥復活など 海軍軍縮の基本合意は
12月13日に 成立した

●太平洋諸島の防備制限区域をめくり紛糾

▽アメリカは「奄美大島、小笠原諸島も入る」

▽陸軍 外交調査会は 猛反対

「純然たる日本本土の一部だ。当然除外される」

▽高橋内閣も

「これ以上の譲歩は国民感情が許さない」と
主張貫徹を 訓令して来た

▽加藤が「こういうことでは、辞めるより外ない」

幣原 徳川も「あなたが辞めるなら、私たちも辞
めますよ」 全権団は 加藤の下に結束した

▽加藤は「全権辞任も辞さず」と電報

政府の方針転換を 迫った

「軍備制限問題ヲ全部破壊シ華盛頓会議ノ失
敗ニ対スル全責任ヲ我カ国ニ於テ引受クル
ノ結果トナルモ敢テ辞セストノ御決意ナル
ヤニ拝察セラルル。強ヒテ御訓令ヲ其ノ儘
執行セサルヘカラサルニ於テハ只大任ヲ拝
辞スルノ外途ナシト思考ス」(1月18日)

●ワシントン条約は大正11年2月6日調印された

▽海軍軍備制限の五国条約は

1936年(昭和11年)12月末まで有効

▽日米英に フランスを入れた

「太平洋に関する四国協約」が 成立し

20年間続いた 日英同盟は 廃棄された

▽日米英三国の 協力関係を中心とした

「ワシントン体制」が スタートすることに

●軍縮条約を纏めたのは、加藤の裁断する勇気と胆力

— 山梨勝之進は加藤を評して —

「玲瓏明哲、鏡のようなクリアな人、頭が良く
て肝が座っている。裁断する勇気と胆力、村正
の名刀のような人でした」

▽加藤は また 用意周到 緻密な手を打っていた

▽「加藤全権伝言」(昭和10年12月27日附)

— 日本国内の反応は… —

「五・五・三」が発表されると、国民の
多くは、一等国、五大国の自負心を傷
つけられたように感じた。新聞論調
も、米英の圧力に屈した意気地なさ、
弱腰を責めるものが大半で、「7割よ
り、グアム、マニラの要塞化阻止の方
が重要な成果だ」と評価したのは、読
売新聞くらいのものだった。

野党憲政会も「元来対等の地位にあ
る日本が、何でこんな譲歩をする必
要があるのか」、「屈従外交だ」と政府
批判を展開した。

— 海軍軍備制限に関する五国条約 —

[主力艦の保有数量]

アメリカ 18隻 525,000ト

イギリス 20隻 ”

日 本 10隻 315,000ト

フランス 10隻 221,000ト

イタリア 10隻 182,000ト

このほか現存するもの、ならびに建
造中のものは全て廃棄する。各国の
保有することができる主力艦の代換
は、10年後(1931年)までは起工しない
こと。但しフランス、イタリアに限り、
1927年から起工してもよい。各国と
も不慮の事変などで減艦したときは
すぐ代換建造にかかってよい。代換
主力艦1隻のト数は3万5千ト以下、備
砲の口径は16吋以下とする。

[補助艦の制限]

1隻のト数を1万ト以内、備砲の口径
を8吋以内。合計排水量は無制限。

[防備制限]

日米英3国は左記各自の領土及び属
地において要塞および根拠地に関し
本条約署名時における現状を維持す
ること。

一、フィリピン、グアム、サモア、アリ
ューシャン諸島など、アメリカが太

▽6 割受諾の経過 自分の国防論 今後の海軍方針を
随員の堀悌吉中佐に 口述筆記させたもの

加藤全権伝言(600字詰原稿18枚)

…国防ハ軍人ノ占有物ニ非ズ。戦争モマタ軍人ノミニテナシ得ベキモノニアラズ。国家総動員シテコレニ当タルニアラザレバ、目的ヲ達シ得ズ。ユエニ一方ニオイテハ軍備ヲ整備スルト同時ニ民間工業力ヲ発達セシメ、貿易ヲ奨励シ、真ニ国力ヲ充実スルニアラズンバ、イカニ軍備ノ充実アルモ活用ハデキナイ。ヒラタクイヘバ金ガナケレバ戦争ハデキナイ。

…仮ニ軍備ハ米国ニ拮抗スルカアリト仮定スルモ、日露戦争ノトキノゴトク、ワズカノ金デハ戦争ハデキナイ。シカラバ金ハドコカラ、ダレガ出スカトイフコトニナルガ、米国以外ニ日本ノ外債ニ応ズル国ハ見当タラナイ。而シテ、其ノ米国ガ敵デアルトスレバ、此ノ途ハフサガレ、日本ハ自力デ軍資金ヲツクリ出サザルベカラズ。コノ覚悟ガナキカギリ、戦争ハデキナイ。カク論ズレバ、結論トシテ日米戦争ハ不可ナリトイフコトニナル。

…ココニオイテ、日本ハ米国トノ戦争ヲ避ケルコトヲ必要トスル。デキ得ルダケ日米戦争ヲ避ケ、相当ノ時機ヲ待ツヨリ外ニ仕方ナク、カク考ヘレバ国防ニ相当スル武力ヲ整ヘルト同時ニ、国力ヲ涵養シ、一方、外交手段ニヨリ戦争ヲ避ケルコトガ、目下ノ時勢ニオイテ国防ノ本義ナリト信ズ。

…仮ニ軍備制限問題ナク、コレマデ通りノ建艦競争ヲ継続スル時ハイカガ。アメリカノ世論ハ軍備拡張ニ反対スルモ、ヒトタビソノ必要ヲ感ズル場合ニハ、何事デモ遂行スル実力ガアル。…カクナッテハ、日米間ノ海軍力ノ差ハマスマス増加スルモ、接近スルコトナシ。日本ハ非常ナル圧迫ヲ受ケルコトニナルベシ。

米国提案ノ十・十・六ハ不満足ナルモ、モシ、コノ軍備制限成立セザル場合ヲ想像スレバ、ムシロ十・十・六デ我慢スルヲ結果ニオイテ得策トスベカラザルヤ。

平洋において領有しまたは将来取得することあるべき属地。但しアラスカ島及びパナマ運河地帯海岸に近接する島嶼およびハワイ諸島は制限外とする

一、香港およびイギリスが東緯百十度以東の太平洋において領有しまたは将来取得することあるべき島嶼たる属地。但しカナダに近接する島嶼、オーストラリア連邦およびその領土およびニュージーランドを除く

一、千島諸島、小笠原諸島、奄美大島、琉球諸島、ならびに日本が将来取得することあるべき太平洋における島嶼たる領土および属地

[条約の効力]

本条約は1936年12月31日まで効力を有する。但しその2年前までにアメリカ政府に条約廃止の意志を通告する国なきときは、締約国のいずれかが廃止を通告する日から 2年を経過するまで引きつづき効力を有する。締約国のいずれかがなしたる廃止通告が効力を生じた日より 1年以内に締約国全部は会議を開催する。

堀 悌吉(ひとりけきち)

明治16(1883)～昭和34(1959)大分県生まれ。海軍中將。駐仏武官補佐官を経てワシントン会議随員。昭和4年軍務局長となり山梨次官を助けてロンドン軍縮条約調印に奔走したが、9年に条約派一掃人事で予備役に。日本飛行機社長、浦賀船渠社長。山本五十六の親友

— 意見を求められた加藤寛治は —

「大臣が大局から判断されたのだから何も申し上げることはありません」

●加藤の大人の見識だった

▽軍備をフリーで競争したら

国力の弱い日本が 負けるに決まっている
いくら7割を確保しても

アメリカが その気になれば 5割 4割に
▽アメリカが これ以上 軍備を拡張しないよう

10対6の比率で 引き止めておく

▽議会で 憲政会の攻撃を 予測し

井出海軍次官に 経過と自分の考えを

伝えておこうと 堀中佐に持たせ 帰国させた

▽7割論者の東郷元帥にも

山梨大佐を先に帰して 了解を取り付けた

●「海軍育ての親」山本権兵衛を見て学んだ

▽明治32年 38歳で 軍事課長になった時

大臣が山本 それから3年 山本の下にいて

視野の広さ 決断 慎重さを 身につけていった

―― 板内曾次郎の語る加藤 ――

「無口で、趣味としてはザル基だけ。酒だけは大いに飲み、日露戦争当時は三升くらい飲んでも大して酔わなかった。無頓着、宗教ざらいで、ただ自己を信ずるのみであった」

―― 日本海海戦(明治38年5月27日)の加藤参謀長 ――

連合艦隊は「敵艦見ユ」の第一報で鎮海湾から出撃したが、加藤は朝から胃の激痛に襲われていた。軍医を呼び「勝負を決するには三時間もあれば十分だ。三時間だけ僕の胃の痛みを止めてくれる薬はないか」。軍医が劇薬だからとためらうと「いや、三時間だけ生きていればよい。万一この戦いに勝てば、僕が死んだところで海軍には加藤くらいの参謀は幾らでもいるよ」。その劇薬を一気に飲み干すと、「これでよし」と艦橋に戻っていった。

「東洋の奇跡」と称賛された戦いは「東郷ターン」と呼ばれる敵前Uターン。作戦参謀秋山真之が考案した丁字戦法で、問題はタイミングだった。Uターンの間は砲撃できず、早すぎても遅すぎても失敗する。午後2時5分、両軍の距離8千ヤードで、望遠鏡から目を離した加藤が東郷

山本 権兵衛(やまもと・ひくべ)

嘉永5(1852)～昭和8(1933) 薩摩藩出身。海軍大将。明治26年海軍省官房主事の時、老齢幹部97人の整理を断行。28年軍務局長となり、対露戦に備え「六六艦隊」を推進。31年海相、在任7年。大正2年首相に就任し軍部大臣現役武官制を撤廃したが、シーメンス事件(驛傳めぐり騒動)で総辞職。12年、関東大震災直後に再び首相。虎ノ門事件(黙子騒動)で辞職

..... 「ひいかちの友公」

2歳の時に安芸藩学問所の教師をしていた父親を亡くし、17歳違いの長兄が父親代わり。6番目の末っ子で甘やかされて育ったせいもあり、我儘、癪癪持ち(島では「ひいかち」という)。腰に赤鞘の長い刀をぶち込み、二言目には「ぶった斬るぞ」と、近所でも評判のガキ大将だった。

明治5年海軍士官になっていた長兄に伴われて上京、翌年海軍兵学寮(新橋)合格したが12歳、最年少だった。

板内 曾次郎(いたない・そろう)

慶応2(1866)～昭和7(1932) 岩手県生まれ。海軍大将。大正6年から9年まで加藤海相の下で次官。10年連合艦隊長官

秋山 真之(あきやま・まゆみ)

慶応4(1868)～大正7(1918) 伊予松山藩出身。海軍中将。好古陸軍大将の弟。明治30年米国に留学し海軍切っ手の戦術家。日露戦争では連合艦隊参謀、日本海海戦でバルチック艦隊を破る。大正3年軍務局長。第1次世界大戦で欧州視察

―― 砲術の権威だった加藤 ――

明治19年、25歳で海兵の砲術教授心得。当時の教官は全てイギリス人で、日本人では初の教官だった。

に「もうよろしいかと思ひます」。東郷が領き、加藤の「艦長、取り舵いっぱい」の甲高い声が艦橋に響き渡り、旗艦三笠は、グイと左に直角に進路を変えたという。

午後4時頃に大勢が決まっても加藤は笑顔を見せない。駆逐艦が1隻寄ってきて、水兵が「万歳万歳」と叫ぶと、不機嫌な顔で信号手を振り返り、「あの艦に、向こうへ行けと言え」。「勝つて兜の緒を締めよ」の訓戒だったが、日が暮れるとガンルームに来て「やあ、きょうはご苦労だった」とニコツとした。みんな、「参謀長の笑顔を初めて見た」と大喜びしたという。

●加藤が首相になったのは大正11年6月12日

▽高橋内閣が7か月で総辞職に追い込まれたのは

原亡き後の政友会は「平清盛亡き後の平家」

大物党员は いっぱいいても 群雄割拠

内閣改造に失敗し 政友会の内紛

閣内不統一を さらけ出してしまったため

▽元老中の元老 山県有朋は2月に亡くなり

後継首相選考は 西園寺公望と松方正義に

西園寺の考え

暗殺とか陰謀で内閣が倒された時には、前内閣の基盤をそのまま踏襲させる考えだった。反対派に政権を譲れば、暗殺、陰謀を奨励するようなことになるからで、原暗殺の時は、同じ政友会の高橋内閣とした。かつては総裁を務めた西園寺も政友会の内紛に嫌気がさしたのか、病気を理由に後継選考を松方に一任した。

「加藤に非ずんば加藤」

松方が枢密院議長・清浦奎吾と協議した結果 [第一候補] 加藤友三郎＝ワシントン会議を纏めた手腕、次期内閣最大の課題が条約の実施。 [第二候補] 加藤高明＝政友会内閣が行き詰まった以上、野党第一党・憲政会に政権を渡すべきだという「憲政の常道論」。

加藤(友)が固辞すると、憲政会は色めきたち、幹部の有力者歴訪が始まった。政友会も「この

高橋と原

蔵相を6回もやって数字には詳しい高橋が、人の顔、名前を覚えるのが大の苦手だったという。松本重蔵という人から手紙が来て、高橋は「誰だろう？俺は知らんぞ」。秘書官の津島寿一が差出人を見ると、高橋が毎日のように顔を合わせている最古参の主税局長。少々呆れてそう言う「あれは松本というのか、アハハ…」

派閥とか人間関係に、全く無頓着だった高橋の一面。原は、たとえ初対面でも、一度、名刺と相手の顔をじっと見比べたら、決して忘れなかった。

津島 寿一(つしま・じゅいち)

明治21(1888)～昭和42(1967) 香川県生まれ。岡田内閣高橋蔵相の下で次官。日銀総裁を経て昭和19年小磯内閣蔵相。28年参議院議員、岸内閣防衛庁長官

山県 有朋(やまがた・ありとも)

天保9(1838)～大正11(1922) 長州藩出身。陸軍大将・元帥。維新で奇兵隊軍監。ヨーロッパに派遣され帰国後は陸軍大輔として軍制確立、徴兵令制定。初代参謀本部長、初代内相となり、陸軍と内務官僚の支配権を握る。明治22年首相、31年再び首相となり軍部大臣現役武官制を実施。日露戦争では参謀総長。長州閥総帥として陸軍、政界に君臨した

西園寺 公望(さいおんじ・きんもち)

嘉永2(1849)～昭和15(1940) 京都生まれ、九清華家の出。明治4年から10年間、フランスに留学。文相、枢密院議長を歴任し36年政友会総裁。39年首相。44年再度首相の時、陸軍の2個師団増設要求を拒否、陸相辞職で総辞職。パリ講和会議全権を務め、国際協調に努める。晩年は最後の元老として後継首相奏請

ままでは憲政会内閣になる」と、総裁代行の横田千之助が加藤(友)を訪ね「政友会黨員は一人も入閣させなくてもよい。政友会は無条件で援助する」と約束。条約の実施が自分の使命と思っていた加藤(友)も、内閣組織を決意した。

●新内閣に世論の風は冷たかった

▽原 高橋内閣と 政党内閣が続いたのに

軍人内閣は 大正デモクラシーの流れに逆行
閣僚に貴族院議員が多く「官僚内閣」と反感

▽「ロウソクの燃え残り」「残燭内閣」

かつては日本海で 火のように燃えて戦ったが
今や ロウソクの燃え残りのように

青白く冷たく 余命 いくばくもない

…… 東京日日新聞の加藤評 …………

「一体加藤君は「一介の武弁」を本領とせんと
の理想に執着するあまりか、ややもすれば恬
淡無愛想を一枚看板にかかげすぎるのきらい
あり、鼻のさきで人をあしらうことをもって、
むしろおれの役目だとなす傾向はありはせぬ
か、いまや残燭でもなんでも島帝国の宰相、国
民運命をその柳のようにこけた双肩に荷うて
国際政局の舞台に見得をきる晴れの立役者で
はないか。曲芸を仕込まれた象か何かならば
ともかく、すこしは愛嬌というものを懸命に
出してみるがいい」

●加藤は、着実に政策を実行に移していった

▽6月14日に初閣議 翌日 施政方針を発表

・外交では 国際連盟規約 ワシントン条約の
精神に基づき 列国間の親交を増進すること

・内政では「きれいな政治」をモットーに
浪費節約 綱紀肅正 公私の別を明らかに

▽外交面で まず 手をつけたのは

原内閣以来の懸案 シベリアからの撤兵

▽連合軍が撤兵(翌9年)した後も 駐兵は日本だけ
金(贖約9割)ばかり かかって

国際的非難も 高まるばかり

松方 正義(むかた・よし)

天保6(1835)～大正13(1924) 薩摩藩出身。明治14年から16年間大蔵卿・蔵相を務め、日銀創設、兌換銀行条令制定など財政の基礎を作る。24年、29年首相

清浦 奎吾(きよら・けいご)

嘉永3(1850)～昭和17(1942) 熊本県生まれ。松方・山県・桂内閣法相を歴任、大正3年組閣の大命を受けたが政党、海軍の反対で断念、「鰻香内閣」と評された。11年枢密院議長。13年1月首相に就任したが、貴族院母体のため第2次護憲運動が起こり、総選挙で敗れて6月総辞職

加藤 高明(かとう・たかみ)

万延1(1860)～大正15(1926) 愛知県生まれ。三菱に入社、岩崎弥太郎の知遇を得て英国留学、帰国後岩崎の女婿に。駐英公使、明治33年伊藤内閣外相。西園寺・桂内閣外相を経て大正3年大隈内閣外相となり第1次大戦参戦、対中国21か要求を主導した。5年憲政会を組織して総裁。14年首相に就任、在任中に死去

シベリア出兵

大正6年(1917)11月7日、ロシア革命で成立したレーニン政権はドイツと休戦条約を結び、連合国にとって東部戦線が崩壊した。長年、オーストリア帝国の支配下にあったチェコ軍団は、民族独立のため東部戦線でドイツ軍と戦ってきたが、情勢急変でシベリア経由で帰国することになった。ところが7年5月、ウラジオへの途中でソビエト軍と武力衝突、各地にとり残される形となった。

連合国は西部戦線の危機を救うため、チェコ軍救援を名目にシベリアへ出兵し、寺内内閣も8月2日に出兵宣言、延べ9個師団約24万の将兵が4年余りにわたりシベリアの原野に展開した。

▽6月24日「10月末までに撤兵」と 政府声明
 北樺太対岸地方(9月27日)から 始まり
 10月25日には 沿海州撤兵を完了した
 ▽軍縮条約も 8月5日 憲政会の反対を押し切り
 調印国の中では 日本が真っ先に 批准を終えた
 ▽加藤は 日本の国際的地位を 高めるには
 外国から 信頼される国になること
 それには 条約を守ることと 考えていた
 ▽補助艦の比率は フランスの反対で 決まらず
 巡洋艦は いくら造っても 勝手だったが
 加藤は 条約の精神を尊重 6割の線を守らせた
 ▽多いときには 年間2億円の 軍艦建造費は
 8千万円に削減され この数字は 7年間も

●軍縮という大事業には大きな痛み

▽保有を認められた 主力艦は10隻
 (閑 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨)
 ▽14隻を処分しなければならなかった
 薩摩 安芸など10隻は 砲撃 爆撃 解体で
 日本海海戦の三笠は 英米の了解で 記念艦に
 3隻は 武装を解いて 特務艦に
 ▽建造中の赤城(鯨) 加賀(鯨)は 空母に改造
 土佐(鯨) 尾張(鯨)など6隻は 建造中止
 ▽機構縮小にも 大ナタを揮った
 舞鶴 鎮海軍港を 要港に格下げし
 旅順など3要港と 教育本部を廃止
 ▽人員整理は 准士官以上1,700人(大尉3人 中尉17人)
 下士官兵5,800人 海軍兵力8万の1割近く
 士官に至っては 3分の1に及んだ
 ▽主力艦建造をやめれば 大勢の職工もクビに
 ▽財界は 軍縮には 大反対だった
 会議に合わせて 視察団が訪米
 口々に「軍縮になれば軍需産業は大変だ
 造船界は大不況になる」と 訴えていた
 ▽11年10月 呉海軍工廠(4千人)を皮切りに
 1万4千人の職工が 解雇された

●日本財政のピンチを救った軍縮

▽4年間で 軍艦建造の臨時費で 4億9千万円
 経常費で 7,800万円を 減らすことができた

…… 技術陣の血の滲むような努力も ……

軍艦設計には、天才的ひらめきを持つといわれた平賀譲造船中將が考えたのは、出来るだけ安い費用で強い軍艦、出来るだけ小さな軍艦で大きな戦闘力を持つ軍艦を造ることだった。

世界中をアッといわせたのが、軽巡洋艦夕張(2890t)、重巡洋艦古鷹(8100t)。どちらも、2、3千tも大きい軍艦に負けない能力を持ち、この巡洋艦の優秀さがロンドン軍縮会議(1905年)に。

平賀 譲(ひらが・じゅん)

明治11(1878)～昭和18(1943)広島県生まれ。造船中將。英グリニッチ海軍大に留学。戦艦長門、陸奥、古鷹型重巡、夕張型軽巡など英米の技術水準をしのぐ軍艦を設計した。昭和13年東大総長

— 一番苦しい思いをした加藤 —

ワシントン会議が大詰を迎えた頃、加藤は各国海軍武官をパーティーに招待し、挨拶した。「帰国したら、軍縮の犠牲となる同僚、部下の生活を、どのようにして解決しようか、今から思い悩んでいる。私は敢えて、私の苦衷を海軍の同志たる諸君に訴える」

— 軍人失意の時代 —

海兵も八八艦隊に備え毎年300人採用していたが、160人に減らされた。教官は休暇で帰省する生徒に、「やめたい者はよく相談してこい」。高松宮の海兵52期生で、30人ほどが退校、旧制高校などに替わっていった。

海兵の人気もガタ落ちで、生徒が集まらない。もう戦争はない、海軍に入っても出世の機会がない — 秀才が敬遠するようになった。52期生が1号生徒(最上級)になった時、海兵の3分の2は1号生徒だった。

▽加藤は 軍縮の先頭に立ち 決断してきた

加藤自身「自分の最大の責任」と 決意していた
▽加藤が 大筋が固まったのを見届け

大腸ガンで亡くなったのは 大正12年8月24日

▽首相在任1年2か月 62歳

奥さんに「俺はこれから眠る。よく眠れそうだ」

▽海軍は 元帥の称号を贈り 海軍葬で

●海軍は加藤という「重石」を失い、条約派、反条約派に

▽少しでも アメリカを知っている者は

大体 加藤と同じような考え

▽山本五十六は 「デトロイトの自動車工業とテキサスの油田を見ただけでも、アメリカ相手の戦争も、建艦競争もやり抜けるものではない」

▽古賀峯一は 6割海軍に憤慨する 青年士官に
「アメリカが、日本の六分の十で我慢している。
そういうふうを考えればよいではないか」

▽ロンドン会議(1915年)で 堀悌吉(1878-1944)は
山梨勝之進(1878-1944)と 軍縮条約締結に奔走し
二人とも 条約派として 海軍を追われた

▽海大校長の加藤寛治は 帰国後 学生を集めて
「アメリカが6割の根拠とした数字は、自分に都合のいい、身勝手なものだ」 不当をなじった

▽次第に「日本を軍事的、国際的に不法に圧迫したアメリカ」といった見方

日米戦争になった原因として 挙げる人も

▽堀は 手記「ワシントン会議秘実」(1921年2月)で
「そのような事実はなかった」と 否定している

▽軍縮は 海軍を整理された人にも 大きな不満
海兵卒業成績が良く 海軍省 軍令部勤務の者が
海軍に残ったのに 艦隊勤務者が予備役に

▽「あいつらはぬくぬく出世して」「あいつらに任せ
ていたら日本海軍はダメになる」

艦隊勤務者が 加藤寛治の下に結集し「艦隊派」

●軍部大臣の「文官制」を考えていた加藤友三郎

▽山梨に「武官大臣制を変えないと、いつかは軍備
の問題で、軍部が時の政府と衝突するようになる」
また「日本の軍部大臣も、いずれイギリス
流の制度になるだろう」

海軍省勤務の士官が帰宅する時は、
背広に着替えた。軍服姿で街中を歩
くのは気が引ける時代が始まった。

山本 五十六(やまもと・いそく)

明治17(1884)～昭和18(1943)新潟県出身。海軍大将。大正8年から2年間ハーバード大留学。14年駐米武官。航空本部長を経て昭和11年海軍次官に就任し日独伊三国同盟に反対。14年8月連合艦隊長官となり、開戦劈頭、真珠湾攻撃を立案実行。前線視察中、ソロモン諸島上空で米軍機に撃墜され戦死した。死後元帥

古賀 峯一(こが・みねいち)

明治18(1885)～昭和19(1944)佐賀県出身。海軍大将。駐仏武官、軍令部次長、横須賀鎮守府長官歴任、昭和18年4月連合艦隊長官。パラオからダバオへ移動中、飛行機事故で殉職。死後元帥

……「ワシントン会議秘実」……

「当時その事務の局に当たり、かつ会議に参加したる吾らにとりては、世評がいかにあろうとも、わが国が不法に圧迫を蒙りたるがごとき事実を認めざりしのみならず、むしろ多くの場合において、米国側がきわめて紳士的に、しかも親善的に各種折衝に従事したる公正なる態度ありし諸点は、見逃すあたわざるところにして、坊間伝うるところに幾多誤謬の存するまま放置するときは、その結果さらに重大ならんことを懼れ、ここに取りあえず記憶を辿りて本稿を草し…弁妄に資せんことを期す」

—— 評論家江藤淳さんの「一族再会」 ——

江藤さんは海軍一家で、父方の祖父が江頭安太郎海軍中將(皇太子親王の館父。大正2年軍令部長在任中、47歳で死去)、母方の祖父

▽加藤は 米英全権(ヒューズ ハルフォア)が 文官なのに
軍部の発言を きちんと抑えていることに感銘
▽米海軍の試算では 日本の対米比率は49%
ヒューズは「それではとても日本が呑まない」
6割にさせ 不満をいう海軍関係者を
処分して 押し切ったという
▽山梨は「加藤さんがもう少し生きていたら
日本も変わったろう」

- 原首相は加藤の留守中、「海軍大臣臨時事務管理」に
▽文官が 初めて 軍部大臣の実質的な代理
▽普通なら 古参の軍事参議官の大將から代理
しかし 大臣が二人もいるような
強い代理では 加藤がやりにくくなる
▽原は「制度上問題なければ
自分が兼任してもよい」と提案 西園寺を訪ね
「自分が大臣代理になって新例を開くつもりだ」
▽内閣官制では 閣僚なら誰でも
親任式なしに 大臣を代行することに
ただ 海軍官制では「大臣は大將、中將」
海軍との話し合いで 代理でなく事務管理で
▽陸軍は「文官大臣の道を開く」と 猛反対
▽原が 山県を訪ねると
「田中義一(謙卿)に斡旋させてはどうか」
▽田中が「これなら陸軍も同意する」
「今回限りの便法として承認する。しかし軍人大
臣制は守り抜く、それに関しては首相は口出し
しない」この念書への 原の署名だった
▽原が署名し 事務管理が実現したが
議会には 間もなく
軍部大臣文官制を求める決議案が 上程される
▽原が健在だったら 軍縮の時代と共に
一気に シベリアン・コントロールが実現？

- アメリカが「日本がほしければ7割やろう」の余裕を
見せていたら、「日米関係は変わったろう」との意見
▽伊藤正徳(時義経)は「大海軍を想う」に
「日本に1割余計に与えても、アメリカの工業力
からすれば少しも危険でない。日本の反米感情
を煽ることもなく、政治的に賢明だった」

はこの軍縮でクビになった宮治民三
郎海軍少將。

宮治は昭和31年、「一族再会」の中で
慶応の学生だった江藤さんにこう言
っている。「意志に反してだ。いいか、
おれはそのとき潜水学校長の現職を
去る気持は毛頭なかった。おれはす
こぶる無念だった…」

軍部大臣武官制

明治33年5月、陸軍の大御所・山県有朋
が首相の時、官制を改正して現役大將・
中將でないと陸海軍大臣になれないよ
うにした制度。31年に初の政党内閣・大
隈重信内閣が成立、危機感を抱いた山
県が政党勢力の軍部侵入を防ごうとし
たもので、これ以後、軍部はこの制度を
テコに内閣に圧力をかけ権力強化への
布石となっていく。

大正元年12月には、西園寺内閣が陸軍
の2個師団増設要求を拒否、陸相辞職で
総辞職に追い込まれた。2年6月、山本権
兵衛内閣の時に現役の2文字を削除、現
役を退いた予備役、後備役でも大將・中
將でさえあれば大臣になれるようにし
たが、軍人出身に変わりではなく、軍部の
発言力は依然として強かった。

田中 義一(たなか・ぎいち)

元治1(1864)～昭和4(1929) 長州藩出
身。陸軍大將。明治31年から4年間ロシ
ア留学。日露戦争で満州軍参謀。参謀次
長を経て大正7年原内閣陸相。14年政友
会総裁となり昭和2年首相。張作霖爆殺
事件の処理で天皇から叱責され辞職

伊藤 正徳(いとう・まさのり)

明治22(1889)～昭和37(1962)茨城県生
まれ。軍事評論家。ワシントン会議で時
事新報特派員として日英同盟廃棄をス
クープ。戦後、共同通信初代理事長

▽日本海軍にも 精神主義が 強くなっていった
▽東郷元帥は「軍備に制限はあっても訓練に制限はない」連合艦隊長官になった加藤寛治は「月月火水木金金」の 猛訓練を実施

●日本の外交暗号が盗まれていた

▽日本政府と全権団との 5千通の電報は「ブラック・チェンバー」(Black Chamber)がことごとく 解読していた
▽アメリカは「ここまで強く出ても大丈夫」ギリギリの線を 知っていた

●昭和12年から無条約時代、自由建艦競争に突入

▽日本政府は 昭和9年12月29日
アメリカに ワシントン条約の廃棄通告
▽加藤寛治は 多摩墓地の 東郷元帥の墓前に報告
帰途 小笠原長生海軍中将邸に 立ち寄り
名刺に「帝国海軍更生の黎明を迎へ候につき
只今東郷元帥の墓に詣でて、いささか英霊を
慰め奉り候」と書いて 辞去したという
▽日本は 巨大戦艦大和 武蔵の建造へ

●問題は、「7割か6割か」よりも、ワシントン会議の成果を有効に生かせなかった — その後の日本の歩みの方にあったのではないか

▽会議最終日の2月6日
「中国に関する九カ国条約」が 調印された
▽アメリカの提案で
中国の主権・独立・領土保全の尊重
中国に対する門戸開放・機会均等の取り決め
▽日本は 満州事変でも 支那事変でも
「中国の主権と領土保全を侵害した」と
国際社会に孤立し 袋叩きにあうことに
▽政治が 軍事を支配せず 軍部暴走を
抑えられなかったことに 最大の問題があった

— ブラック・チェンバー —

「機密室」の名で知られる組織は、第1次大戦後、ドイツの暗号解読に活躍したヤードレー(H. Yardley)が、国務省と陸軍省に働きかけ日本の外交暗号解読のための特務機関としてニューヨークに設置された。

日本外務省も、日露戦争でロシアに外交暗号が盗まれたことから、ワシントン会議では暗号を全部改編して臨んだ。片仮名1字をアルファベット2字に置き換えたものだが、ヤードレーは「ありたし」、「大臣」など、外交文書によく出てくる言葉を手がかりに解読していった。

昭和4年、国務長官スティムソン(暁諭の譯名)は「紳士のやることではない」と予算を打ち切り解散させたが、失業したヤードレーが内幕を本に書いて暴露したため大騒ぎになった。日本でも3万2千部売れるベストセラーになり、新聞には外相の幣原が当時駐米大使だったことから責任論まで出た。

小笠原 長生(おがさわら・ながなり)

慶応3(1867)～昭和33(1958) 江戸生まれ。海軍中将。肥前唐津藩主小笠原長行の長男。東郷の秘書役を務め、宮中顧問官、学習院御用掛。著に「東郷元帥詳伝」